

# アジアにおける 日本の軍・学校・宗教関係資料

編集・解題 大東仁、槻木瑞生

## 第4期 日本佛教団(含基督教) の宣撫工作と大陸 - 日本語学校

第2集 vol. 5~vol. 9・全5巻 A5判・上製 揃定価 125,000円 (+税)

### 教団史料と非教団史料

大東仁

宗教団体の「海外開教」を見る場合、まず教団発行の史料が重要になる。しかし同時に、客観性に欠けること、他団体への言及が少ないという限界がある。もちろん、複数団体の史料を同時に検証できればよいが、そうした史料を収集することは困難である。そこに本史料集刊行の意味がある。

残念ながら、すべての宗教団体が史料の編纂や発行をしているわけではない。また特定の地域しか記録されていないこともある。このような限界をとりはらうのが、非宗教団体の史料であろう。これらは、宗教団体の主観を排するものであり、またそこから占領地・植民地行政の意図、宗教を利用しようとした意図をくみ取ることができる。これらの意図と、宗教団体の具体的な活動を照らし合わせれば、より明確に「宗教工作」を証明することができる。

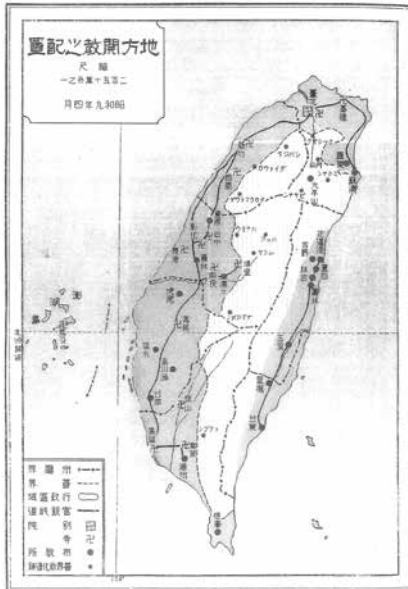
宗教団体の史料である「真宗本派本願寺『台湾開教史』」は、台湾「開教」に限定したもので、1895（明治28）年から1934（昭和9）年までを内容としている。そのため、台湾の本願寺派の植民地「開教」の全体像を見通すことができる。同じ宗教団体史料の『浄土宗開教要覧』は、浄土宗の「開教区」すべてを包括している。もちろん発行が1929（昭和4）年のために、十五年戦争期の動向は未記載であり、「占領地布教」については限界がある。しかし多くの地域が記録されていることで、台湾・朝鮮に対する「植民地開教」の相違を浮き上がらせる。

次に、非宗教団体史料の『昭和14年版宗教年鑑』だが、文字通り日本宗教の全体を対象とした民間史料である。この『昭



参拜のバイワン番人

寺平太山旗



和14年版』には、「東亜宗教の現勢」が特集されているので、「開教」史料として本資料集に収集した。さらに、『満洲国の宗教』は「満洲国」の編纂による公的なもので、巻末の「満洲宗教関係文献目録」は特に注目したい。『康德十年度 奉天市宗教便覧』は「満洲国奉天」に限ったものだが、地域限定ならではの報告がある。

いずれの資料も、「植民地布教」の初期・中期の段階を知る、必須のものである。

## 大陸布教とは何なのか 梶木瑞生

日本列島と大陸の間では長い間の文化の交流があった。特に日本列島の住民からすれば、いわば大陸は文化の故郷であった。その大陸の文化を受け入れながら、長い時間をかけて日本列島独特の文化に仕上げてきたのである。そのために、日本列島に住む人たちの大陸の文化や生活についての意識と、大陸に住む人たちの日本列島の文化や生活についての認識にはかなりの違いがある。今回の『日本仏教団(含基督教)の宣撫工作と大陸』のシリーズに含まれた資料を読むためには、こうした日本列島の伝統的な大陸意識を踏まえることが大切である。大陸との結びつき方、別の言い方をすれば日本列島住民の大陸への優越感と劣等感、またそれが混在している姿を理解して見なければならぬ。そして、日本側の宗教関係者の大陸での活動とは何だったのかを考えると、本資料集に収録された史料は大いに役立つ。

宗教活動とは、現地の生活の中に入り込むことで自分たちの信仰を伝えることである。そこには既に現地の人たちの生活の中に入っている他の宗教の姿があって、日本列島の人たちには理解しがたい宗教の姿も見られた。『満洲国の宗教』には、中国の僧侶は一般的に「文化程度が低く」、中には「目に一丁字なき者すら多い状態で、衆生の済度などとは思ひも依らず」という文章がある。その一方で「学徳勝れた高僧も少くはなく、日本の僧侶も及ばぬような聖僧もあることは注目を要する」とも書かれている。大陸での布教活動は、大陸に違和感を感じながら活動していたことが分かる。『昭和14年版 宗教年鑑』には、巻頭に「特輯篇 東亜宗教の現勢」、「解説篇 神仏観念の諸問題」などが掲載されていて、当時の布教者たちが異なる文化や宗教に出会って苦闘している姿が記されている。そうした布教者の苦闘や、その活動の影響については現在忘れ去られている。ここにはそうした記録の一部が残っている。大陸の宗教は過去のものではな



朝鮮京畿道開城南山町  
開城學堂商業學校

い。また日本の宗派の影響も過去のものではない。こうした歴史を振り返って見ることは、現在の大陸の姿を知ることにもなる。そして、そうした過去を知ること、当時の、また現在の宗教活動の意味を見つけることに繋がるだろう。

明  
照  
寺

満州大連市天神町四〇番地



## = 収録内容 (目次) =

### 真宗本派 本願寺 台湾開教史

#### 第一篇 台北別院時代

第一章 台湾開教の端緒 (最初六年間)

第二章 別院の建立と事業  
(明治の末期十二年間)

第三章 別院の沈滞と刷新 (大正初期十年間)

第四章 院務の発展と開教の進捗  
(大正昭和の七年間)

第五章 協会補助機関の沿革

#### 第二篇 台湾別院時代

第一章 別院改称後の経過 (六年間)

第二章 本堂新築

第三章 落成慶讃の諸行事

第四章 慶讃会の御親修

#### 第三篇 開教教務所及別院の現在

第一章 開教教務所及一般教務

第二章 別院の規程及行事

第三章 別院教学の現状

第四章 教化補助機関の現状

#### 第四篇 地方誌

第一章 台北州内

第二章 新竹、台中兩州内

第三章 台南、高雄兩州内

第四章 澎湖、花蓮港、台東三庁内

#### 第五篇 感想年表及名簿

第一章 職員及関係者の感想

第二章 一般統計略表

第三章 沿革年表

第四章 職員名簿

#### 附録、分類索引

### 昭和十四年版 宗教年鑑

特集篇 東亜宗教の現勢

解説篇 神仏觀念の諸問題

教義布教篇

時事篇 人事篇 便覧篇

統計篇 出版篇 職員録 人名録

### 満洲国の宗教

第一章 仏教

第二章 道教

第三章 基督教

第四章 イスラム教

第五章 其の他の宗教及類似宗教

附録 全国宗教統計／暫行寺廟及布締規則／満洲宗教関係文献目録

### 浄土宗開教要覽

台湾開教区 支那開教区

朝鮮開教区 布哇開教区

樺太開教区

### 康德十年度 奉天市宗教便覧

宗派別寺廟布教者信徒数表

宗派別統合機関表

宗教重要年中行事表

奉天市仏教總會章程

# 第4期 日本佛教団 (含基督教) の宣撫工作と大陸—日本語学校

## 本企画の主旨

日本の宗教教団は大陸でいろいろな関係を持ち、布教活動だけでなく多様な活動をしてきた。この企画は、そうした活動に関連する基礎資料を公開し、植民地・占領地での「文化工作」を捉えようとするものである。

このため、軍、現地行政と教育、宗教の動向分析を行いながら、これらの独立した行動と深い連帯の実態を順次明らかにしていく。

第1集 vol. 1～4 全4巻 定価 100,000円 (+税)

ISBN978-4-8447-0234-4

- vol. 1 { 朝鮮開教五十年誌 (昭和2年10月1日) ..... 大谷派本願寺朝鮮開教監督部  
支那事変と曹洞宗 (昭和14年11月6日) ..... 曹洞宗興亜局教学部長 蔵山光瑞編
- vol. 2 新東亜の建設と佛教 (昭和14年4月29日) ..... (財)佛教联合会
- vol. 3 { 南京及蘇州に於ける佛教の実情調査 (昭和15年5月) ..... 興亜院華中連絡部  
光華抄 (昭和15年2月22日) ..... 大谷智子  
南京及蘇州に於ける基督教の実情調査 (昭和15年5月) ..... 興亜院華中連絡部  
満洲に於ける天主教 (昭和14年2月28日) ..... 満鉄鉄道総局営業局旅客課
- vol. 4 { 大陸に於ける宗教工作状況—佛教工作を主として ..... 大倉精神文化研究所調査部  
滞在支那記 (明治9年6月～31年11月16日) ..... 谷了然

第2集 vol. 5～9 全5巻 定価 125,000円 (+税)

ISBN978-4-8447-0058-6

- vol. 5 { 真宗本派  
本願寺 台湾開教史 (昭和10年5月18日) ..... 真宗本派本願寺台湾別院
- vol. 6 {
- vol. 7 { 昭和14年版宗教年鑑 (昭和14年1月31日) ..... 有光社
- vol. 8 {
- vol. 9 { 満洲国の宗教 (康德6年1月28日) ..... 満洲事情案内所  
康德十年度奉天市宗教便覧 (康德11年3月1日) ..... 奉天市公署行政科厚生股  
浄土宗開教要覧 (昭和4年3月15日) ..... 浄土宗務所教学部

次刊 第3集 vol. 10～14 全5巻 予価 125,000円 (+税)

ISBN978-4-8447-0082-1

- vol. 10 { 中支宗教大同連盟月報 (第3年4号～第4年12号) (昭和16年4月～17年12月) ..... 中支宗教大同連盟  
(中支宗教大同連盟) 昭和15年度総会要録 ..... 中支宗教大同連盟
- vol. 11 { 中支宗教大同連盟年鑑 (昭和15年11月・同17年5月) ..... 中支宗教大同連盟  
東亜佛教大会紀要 (中華民國30年) ..... 中支宗教大同連盟
- vol. 12 朝鮮諸宗教 (大正11年9月30日) ..... 吉川文太郎
- vol. 13 { 天理教青年会満洲移民事業日譜参考資料 [第三巻] ..... 橋本正治編
- vol. 14 {



龍溪書舎

〒179-0085 東京都練馬区早宮2-2-17 <http://www.ryuukei.co.jp>  
TEL 03(5920)5222/FAX 03(5920)5227 Mail: [info@ryuukei.co.jp](mailto:info@ryuukei.co.jp)